

能登よさこい祭りの 始まりは？

私が携わったのは第3回から。「能登よさこい祭り」の原点は、和倉温泉で行われていた「かいかい祭り」と聞いている。和倉の商店街の人たちが中心になって、鳴子踊りをしてみてはという発案から生まれたらしい。

能登よさこい祭りの 目的は？

当時は、和倉温泉の活性化を目的としたことだったと聞いている。その後、第9回のときに、能登よさこい祭り連絡協議会が立ち上がった。連絡協議会はチームの代表者会議。当時は、どうやったら参加する人や見に来た人が楽しめるかを本当に考えた。

その頃、連絡協議会が立ち上がったタイミングのときに、優勝賞金100万円の企画があり、全国のよさこいチームに参加の呼びかけを行った。そして、全国から参加してくれるようになり、私たちが富山や新潟など、よさこい祭りに参加し、お互いの交流が生まれた。

当初は和倉温泉の活性化が

目的だったが、今はそれに加え、よさこい人や関係者との交流をするのも目的となった。さらに、これまで参加したチームに加え、今年は奈良や千葉からも参加してくれるまでになり、リピーターも多い。本当にありがたい。

苦労話しや課題など

楽しくやっているので、苦労話しと言われても。

地元よさこいチームのレベルが高くなってきたことはうれしいこと。しかし、衣装や運営にお金をかけるようになって、チームの存続が難しくなり、地元チームが減っているのが現状。難しい話だけど地元チームが盛り上がりたないよね。

能登よさこい祭りは、 どんな祭り？

おもしろい祭りだよ。個性があつてね。数は少ないけど、同じジャンルのチームがないし、バラエティーに富んでいる。激しい男踊りもあれば、しなやかな女踊りもある。また、自分たちのチームでも、妹が歌詞を作つて地域の人が曲を作る。そして、私が歌うっていうのも個性があるよ

ね。みんな、こだわりを持ってやっているね。

また、よさこいが中心だけでなく、太鼓や民謡なども取り入れ、幅を広げていきたい。能登に根ざした祭りとなつてほしいね。

これからは、見る人たちもいろんなジャンルを見て楽しんでほしいね。また、「能登よさこい祭り」が和倉のまちづくりや地域づくりにもつながってもらえればいいね。

仲間づくり まちづくり 地域づくり

能登よさこい祭り連絡協議会会長

赤坂 明さん



和

能登の祭りの風

よさこい祭りは全国に約200ある。しかし、全国に共通した課題として、祭りの継続が問題となり、取り止めた祭りもある。そして、地元のよさこいチームが消滅。

全国でそういった現実問題がある中、能登よさこい祭りは発展を続けている。

「苦労なんかないよ。仲間がいるんやもん」と赤坂さんの一言に、今の能登よさこい祭りの全てが込められている。

よさこいを通して、仲間ができ、全国から人を呼んで和倉のまちが賑わうまちづくりができ、地元の人同士のつながりを生んだ地域づくりができた。「よさこい」という名のもとに仲間、まち、地域がつながったのだ。

これからも発展を続ける「能登よさこい祭り」に期待と注目をしていきたい。